

地域情報化アドバイザー制度活用報告書（4日目）

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	岡山県	代表者名	岡山県知事伊原木隆太
担当者部署	危機管理課	連絡先電話番号	086-226-7294
担当者役職	副参事	担当者氏名	大西昌晴
住所	700-8570 岡山県岡山市北区内山下2-4-6		

2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	波平 三雄
評価	大変よい
上記評価の理由（どのよう なところがよ かったか等詳 細に）	防災行政無線（移動系）に係る異メーカー相互接続実証試験へのアドバイスについては、作成した試験報告書の内容について、アドバイザーから助言をいただき、論点整理や考察のまとめ方など大変参考となった。
アドバイザーへの要望事項	

3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）	活動時間（分）
3-1. 活動	2022年1月19日	10時00分	12時00分		120
	派遣形態	支援・助言（オンライン）			

4. 報告書に関してのAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="radio"/> 掲載可
------	--------------------------------------

5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】 職員及び受託コンサルタント業者	人数 2人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果	<p>事業の課題・問題点 （具体的にご記入下さい）</p> <p>移動無線設備の老朽化への対応、新たな技術革新への対応、異メーカー混在による無線設備の適切な維持管理とシステムの長寿命化対策、高度化する災害対策へ対応できる信頼性の高い移動体通信基盤の構築、平常時の利活用の方策など</p> <p>支援により目指す成果 （具体的にご記入下さい）</p> <p>移動無線を取り巻く課題や、実証実験の方法、実験の評価や考察などについてアドバイスいただくことにより、最適なシステム更新と平常時の利活用向上</p> <p>アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）</p> <p>異メーカーの無線機器を混在したシステム構築は、標準機能は可能であっても通話品質や機能性など、県が災害対策において必要とする機能はおおむね確保することができた。 特に今回は相互接続試験の受託業者が作成した報告書の内容についてアドバイスを受けた。</p> <p>支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）</p> <p>試験結果のまとめ方や今後の課題と対応に係るについて、アドバイスにより精度の高いものとなった。</p> <p>具体的な成果物</p> <p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない</p>	

改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	アドバイスにより修正したものを次回の会議で確認していただき、完成させる。
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 該当しない
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい ②次年度に予算化を図り推進する
事業の最終的な目指す姿	今回の実証試験により得られた評価を今後の全体事業に反映する。

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

The screenshot shows a Zoom meeting window. On the left, a Word document titled '260MHz試験報告書.docx' is open. The document text includes:

メーカーが変更することで制御台、運用管理装置、基地局装置を更新すれば現状と同等の機能が利用可能となることを確認することができた。機能の一部(統制機能)は、他の試験中に統制台の画面等で機能を確認したが問題なかった。更新すれば既設メーカーと同様機能は確保できる。

現行の装置は現行メーカーは製造していないので更新することができない。同等の装置を更新する際は他のメーカーとなることから省略した。

5-3. 今後の課題と対応(案)

基地局を他メーカーで更新した場合、通常移動無線で必要な音声通信を主体とする同報通信、一斉通信、グループ通信、強制切断、緊急通信等の各種機能については問題ない。ただし、画像伝送機能は利用しないことが前提となる。今後更新計画を検討する際に考慮が必要な項目をまとめた。

1) 課題

- 農林3ダム、岡南飛行場、日本原自衛隊の計5箇所に設置している固定型無線装置については、電話の他に、データ通信(機器監視情報)、FAX通信を行っており、異メーカーの基地局装置等によりの更新した場合はによりメーカー仕様依存するため機能を維持できない。これを維持しようとするためには改修費用が高額→非現実であるため検討が必要である。
- 固定型無線装置の非音声通信機能については、無線機に付属する拡張装置と遠隔制御器の機能に依存するものであり、既設(NEC)メーカー独自の仕様であることから、他社メーカーでの改修は開発費用が高額となり非現実的である。(試験メーカーヒアリングした結果)したがってこのまま利用することは困難であり、今後の検討課題である。

On the right side of the Zoom window, three video thumbnails are visible: 'oonishi(大西) masaharu(昌晴)', '波平三雄', and 'Masanori Hashimoto'. The Windows taskbar at the bottom shows the date as 2022/01/19 and the time as 11:12.

This screenshot shows a Zoom meeting window with three participants in a grid view. The participants are '波平三雄' (top left), 'oonishi(大西) masaharu(昌晴)' (top right), and 'Masanori Hashimoto' (bottom center). The Zoom window title is 'Zoom ミーティング' and it indicates 'レコーディングしています...' (Recording...). The Windows taskbar at the bottom shows the date as 2022/01/19 and the time as 11:56.